

■国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

■国語科の特質に応じた見方・考え方

言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

■高知県が目指す授業づくりのコンセプト**○国語科における「学びを変える」授業づくりとは**

課題解決的な学習を通して、指導事項に示す資質・能力の着実な定着が図られるよう学習過程を工夫することです。そのためには、生徒が自分の課題を明確にした上で学習の見通しをもち、目的や必要性を意識しながら学びを進めることができる適切な言語活動を設定することが必要です。また、それを通して、どのような資質・能力を育成するのかを明確にして指導することが大切です。

○国語科における「学びをつなげる」授業づくりとは

指導内容の系統性に基つき資質・能力を整理し、各学年の指導計画に沿いながら、言語能力が系統的・段階的に高まるようにすることです。そのためには、9年間で育成を目指す資質・能力の系統を捉え、学年ごとに重点を置くべき指導内容や、単元で働かせる言葉による見方・考え方を明確にし、生徒の学習や発達の段階を考慮して、螺旋的・反復的に指導がなされるよう計画を立てていくことが大切です。

○国語科における「学びを高める」授業づくりとは

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して言葉の特徴や使い方などを理解し、自分の思いや考えを深める学習の充実を図ることです。そのためには、目的意識や相手意識が明確な言語活動を設定し、深い学びの鍵となる言葉による見方・考え方を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、質の高い深い学びにつなげることが重要です。

■国語科の特質に応じて、効果的な学習展開ができるように配慮すべき内容**○学習過程の明確化、「考えの形成」の重視**

各領域の学習過程が一層明確になり、それぞれの過程に指導事項が設定されています。ただし、学習過程は指導の順序性を示すものではないため、必ずしも指導事項を順番に指導する必要はありません。また、〔思考力、判断力、表現力等〕の全領域に「考えの形成」に関する指導事項が示され、自分の考えを形成し、深める力の育成が重視されています。

○言語活動の創意工夫

学習指導要領には、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の指導事項を実現できるように、言語活動例を種類ごとにまとめた形で示しています。各学校では、言語活動例を参考にしつつ創意工夫をして、言語活動の具体化を図ることが必要です。指導のねらいと言語活動の特徴を吟味することで、多彩な言語活動を構想することができます。

○他教科等との関連

言語能力の育成に向けて、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにします。また、国語科と同様、言語を直接の学習対象としている外国語科との連携は特に重要なものとなります。例えば、指導の時期を工夫すること、関連のある学習内容や言語活動を取り上げた単元の設定を工夫することなどが考えられます。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度。

知識及び技能

(2) 情報の扱い方に関する事項
ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。

思考力、判断力、表現力等

C 読むこと
ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。

本単元では〔思考力、判断力、表現力等〕Cアを指導の重点とする。

《単元末に期待する子供の姿の例》

要旨をまとめるためには、文章の構成に着目して、段落の役割や段落どうしの関係を捉えることが大事だね。

要旨は「筆者の考えの中心となる事柄をまとめたもの」だから、「結論」のまとめの中から、筆者の一番伝えたいことを見付けることが必要だね。

段落の役割や段落どうしの関係を捉える際には、題名やキーワード、接続する語句や指示する語句に着目するといね。



筆者の考えの中心となる文やキーワードとのつながりを考えて、何を抜き出したり付け足したりするのかを考えるんだね。

文章を読んだことがない人に説明するためには、結論の部分だけではなく、序論や本論の中から話題や事実を付け足すと分かりやすくなるね。

《主たる教材例》「オオカミを見る目」(東京書籍 1年)

《個々の生徒の状況に応じた配慮》

◇個々の生徒の既習状況に合わせて、文章の構造や内容を捉える方法を選択させる。

《他教科等との関連》

【社会】【理科】第2・3学年 【総合的な学習の時間】
・自然や社会と人間の関わり方について考える活動
・わかったことや考えたことを新聞やレポートにまとめる活動

資質・能力を身に付けるための言語活動例

言語活動 ●「オオカミを見る目」を読んだことがない人に分かりやすいように、筆者の考えを伝えよう～文章の構造を踏まえ、要旨を捉える～

本単元では、筆者の考えがよく分かるように文章の要旨をまとめて伝え合う活動を設定している。まず、最後の一文の筆者のメッセージを受けて、「この文章を読んだことがない人に筆者の考えを伝える」という学習課題を確認する。そして、小学校で学習した知識や方法を使って、段落ごとの内容を捉えたり段落相互の関係を抑えたりしながら必要な情報に着目し、要旨をまとめる活動を行う。学習を進める際は、筆者の考えを伝えるために、何に留意して、どのように、構成や内容を整理したり要旨をまとめたりしたのかを説明し合う活動を重視する。このように、既習の学びを生かすことや、文章構成に着目し、筆者の考えと伝えの基になる内容を関係付けながら必要な情報を整理する学習を通して、目的に応じて正しく要旨を捉える力を高めることができると考える。

構造と内容の把握

・段落の役割や段落どうしの関係に着目し、文章の構造を捉える力。

1～2 学習の見通しをもち、文章の構造をつかむ。
・文章を読み、筆者のメッセージを踏まえて、学習課題を設定する。
・既習を生かして、段落構成図や文章構成表を作成する。

精査・解釈

・必要な情報に着目し、文章をまとめる力。

2～3 要旨をまとめる。
・何を要旨に書くと、筆者の考えがよく伝わるかを考える。
・要旨の分量や構成を考える。
・筆者の考えとのつながりを考えながら必要な情報を取り出して結び付ける。

構造と内容の把握

・文章の構造を踏まえ、要旨を捉える力。

3～4 要旨を共有し、検討する。
・自分がまとめた要旨の意図や工夫を説明し合う。
・友達の考えを聞き、必要に応じて修正する。

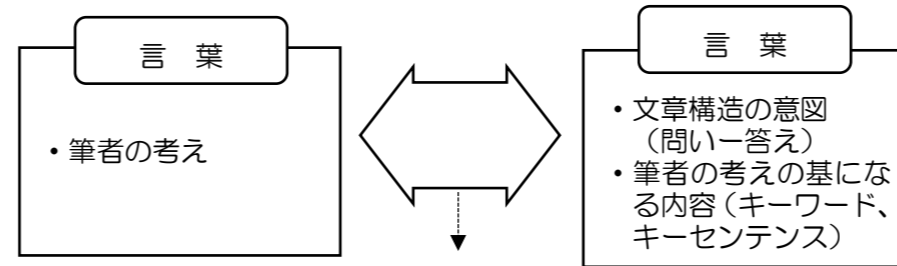
考えの形成、共有

・理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする力。

5 単元のまとめ・振り返りをする。
・筆者の考えについて、別の事例を挙げたりしながら自分の考えをもつ。
・要旨の捉え方や、今後の学習・学習・生活において生かせそうなことをまとめる。

《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》

※筆者は考えを述べるために、どのような文章構成にしたのか？
※筆者の考えの基になる内容はどれか？



見方・考え方を働かせる子供の姿の例

・筆者の考えの根拠となる事実が書かれた段落に着目し、筆者の考えの中心となる文やキーワードに対応する情報を関係付けながら、目的に応じて必要な情報を整理し、正確に要旨を捉えようとしている姿。

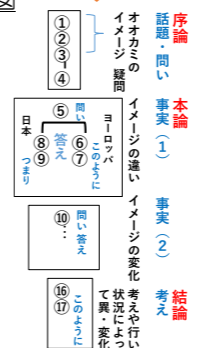
見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

・小学校で学習した、説明文の構造や要旨のまとめ方を思い出させる。

・教材文や、生徒が作成した段落構成図等、要旨をICTで提示し、着目する段落や言葉、修正箇所等を視覚化する。

・文章の構造や内容をどのように捉え、どのようなところに注意して要旨をまとめてきたか、毎時間のまとめや、要旨の作成過程を見て振り返らせる。

段落構成図の例



本論の⑥～⑨に見方の「違い」(答え)が述べられているね。⑦の「このように」と⑨の「つまり」という言葉から、⑦⑨が「違い」についての答えのまとめと言えるから、ここから、どのような社会状況によって、どのような見方がされているかを確認して取り出すといね。

文章構成表の例

筆者の考え	言葉	関係付け・問い
① オオカミのイメージ	① オオカミのイメージ	① オオカミのイメージ
② ヨーロッパ	② ヨーロッパ	② ヨーロッパ
③ ヨーロッパと日本	③ ヨーロッパと日本	③ ヨーロッパと日本
④ オオカミのイメージ	④ オオカミのイメージ	④ オオカミのイメージ
⑤ 答え	⑤ 答え	⑤ 答え
⑥ 違い	⑥ 違い	⑥ 違い
⑦ つまり	⑦ つまり	⑦ つまり
⑧ このように	⑧ このように	⑧ このように
⑨ 答え	⑨ 答え	⑨ 答え
⑩ 違い	⑩ 違い	⑩ 違い
⑪ 結論	⑪ 結論	⑪ 結論
⑫ オオカミのイメージ	⑫ オオカミのイメージ	⑫ オオカミのイメージ
⑬ ヨーロッパ	⑬ ヨーロッパ	⑬ ヨーロッパ
⑭ ヨーロッパと日本	⑭ ヨーロッパと日本	⑭ ヨーロッパと日本
⑮ オオカミのイメージ	⑮ オオカミのイメージ	⑮ オオカミのイメージ
⑯ オオカミのイメージ	⑯ オオカミのイメージ	⑯ オオカミのイメージ
⑰ オオカミのイメージ	⑰ オオカミのイメージ	⑰ オオカミのイメージ
⑱ オオカミのイメージ	⑱ オオカミのイメージ	⑱ オオカミのイメージ
⑲ オオカミのイメージ	⑲ オオカミのイメージ	⑲ オオカミのイメージ
⑳ オオカミのイメージ	⑳ オオカミのイメージ	⑳ オオカミのイメージ
㉑ オオカミのイメージ	㉑ オオカミのイメージ	㉑ オオカミのイメージ
㉒ オオカミのイメージ	㉒ オオカミのイメージ	㉒ オオカミのイメージ
㉓ オオカミのイメージ	㉓ オオカミのイメージ	㉓ オオカミのイメージ
㉔ オオカミのイメージ	㉔ オオカミのイメージ	㉔ オオカミのイメージ
㉕ オオカミのイメージ	㉕ オオカミのイメージ	㉕ オオカミのイメージ
㉖ オオカミのイメージ	㉖ オオカミのイメージ	㉖ オオカミのイメージ
㉗ オオカミのイメージ	㉗ オオカミのイメージ	㉗ オオカミのイメージ
㉘ オオカミのイメージ	㉘ オオカミのイメージ	㉘ オオカミのイメージ
㉙ オオカミのイメージ	㉙ オオカミのイメージ	㉙ オオカミのイメージ
㉚ オオカミのイメージ	㉚ オオカミのイメージ	㉚ オオカミのイメージ
㉛ オオカミのイメージ	㉛ オオカミのイメージ	㉛ オオカミのイメージ
㉜ オオカミのイメージ	㉜ オオカミのイメージ	㉜ オオカミのイメージ
㉝ オオカミのイメージ	㉝ オオカミのイメージ	㉝ オオカミのイメージ
㉞ オオカミのイメージ	㉞ オオカミのイメージ	㉞ オオカミのイメージ
㉟ オオカミのイメージ	㉟ オオカミのイメージ	㉟ オオカミのイメージ
㊱ オオカミのイメージ	㊱ オオカミのイメージ	㊱ オオカミのイメージ
㊲ オオカミのイメージ	㊲ オオカミのイメージ	㊲ オオカミのイメージ
㊳ オオカミのイメージ	㊳ オオカミのイメージ	㊳ オオカミのイメージ
㊴ オオカミのイメージ	㊴ オオカミのイメージ	㊴ オオカミのイメージ
㊵ オオカミのイメージ	㊵ オオカミのイメージ	㊵ オオカミのイメージ
㊶ オオカミのイメージ	㊶ オオカミのイメージ	㊶ オオカミのイメージ
㊷ オオカミのイメージ	㊷ オオカミのイメージ	㊷ オオカミのイメージ
㊸ オオカミのイメージ	㊸ オオカミのイメージ	㊸ オオカミのイメージ
㊹ オオカミのイメージ	㊹ オオカミのイメージ	㊹ オオカミのイメージ
㊺ オオカミのイメージ	㊺ オオカミのイメージ	㊺ オオカミのイメージ
㊻ オオカミのイメージ	㊻ オオカミのイメージ	㊻ オオカミのイメージ
㊼ オオカミのイメージ	㊼ オオカミのイメージ	㊼ オオカミのイメージ
㊽ オオカミのイメージ	㊽ オオカミのイメージ	㊽ オオカミのイメージ
㊾ オオカミのイメージ	㊾ オオカミのイメージ	㊾ オオカミのイメージ
㊿ オオカミのイメージ	㊿ オオカミのイメージ	㊿ オオカミのイメージ

⑩のキーワードを踏まえて、⑬から、ヨーロッパと日本では「農業の在り方の違いによって、見方が正反対になった」ことを加えて、要旨を短くまとめよう。



でも、読んだことがない人には、具体的な事実を加えた方が分かりやすいと思うな。序論の②③から、ヨーロッパと日本のオオカミのイメージを書き、本論から、「問い」の「答え」が書かれた段落に着目して、ヨーロッパと日本の社会状況の違いや、日本の社会状況によるオオカミの見方の変化を取り出して、⑩の考えにつなげて書こう。

主な資質・能力の系統	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年	本単元	中学校第2学年	中学校第3学年
	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。	文章の構造や内容をどのように捉え、どのようなところに注意して要旨をまとめてきたか、毎時間のまとめや、要旨の作成過程を見て振り返らせる。	文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。	文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等
言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度。

知識及び技能
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。

思考力、判断力、表現力等
A 話すこと・聞くこと
イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。
ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

本単元では〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)イを指導の重点とする。

《単元末に期待する子供の姿の例》

－ 単元末の振り返りより －

・説得力を持たせる話の構成を学習して、自分たちの提案の中で強調したいことを、話の流れの中のどこに位置付けるかによって聞き手への伝わり方が変わることが分かった。構成を意識して話の順番を考えることで、自分たちが一番伝えたいことが何かははっきりした。

A(1)イにおいてB評価と判断する生徒のコメント例



《主たる教材例》「魅力的な提案をしよう」(光村図書「国語2」)

《個々の生徒の状況に応じた配慮》

◇人前で話すことへの不安や難しさを抱いている生徒には、学習活動に応じて表現方法等を選択できるように配慮する。

《他教科等との関連》

【総合的な学習の時間】

・「地域活性化」について課題解決に向けた取組を提案、発信する学習活動

【技術・家庭〔技術分野〕】 D 情報の技術

資質・能力を身に付けるための言語活動例

言語活動 ●地域を盛り上げる企画を提案しよう ～相手に伝わるように話の構成を工夫する～

本単元では、地域の人たちから依頼を受けて、自分たちの地域を盛り上げる企画を提案するという社会生活につながる課題解決的な言語活動を設定している。また、総合的な学習の時間(地域の人たちからの依頼を基に探究的な学習を進める)と技術・家庭〔技術分野〕(提案の説得力につながるパワーポイントを作成する)との教科等横断的な単元構想をすることで、生徒の主体的な学びにつなげる。自分のグループの提案が採用されるために、どうすれば聞き手の興味や関心を引き、自分たちの提案が伝わる内容や構成、情報の示し方になるのかということを通して、目的や相手に応じた説得力のある話し方を身に付けることができることを考える。

話題の設定

説得力のある提案になるように内容を検討する力。

1 プレゼンテーションモデルを提示し、構成、資料の使い方、話し方の工夫について分析させ、効果的な提案の仕方について捉える。

情報の収集、内容の検討

収集した情報を整理する力。

2 ①集めた資料を基に、提案内容をグループで検討し、決定する。

構成の検討、考えの形成

説得力のある話の構成を工夫する力。

②モデル映像を踏まえ、提案内容とその根拠とのつながり、伝える順番に着目し、個人で構成を考える。(2. ①・②併せて1時間)

3. 説得力のある提案にするために、グループで話の構成を考える。

表現

話の流れに合った資料の使い方と話し方を工夫する力。

4 グループ同士でプレゼンテーションのリハーサルを行う。
・「分かりやすく伝える構成の工夫」「資料の掲示のタイミング」の評価の観点を基に相互評価する。

共有

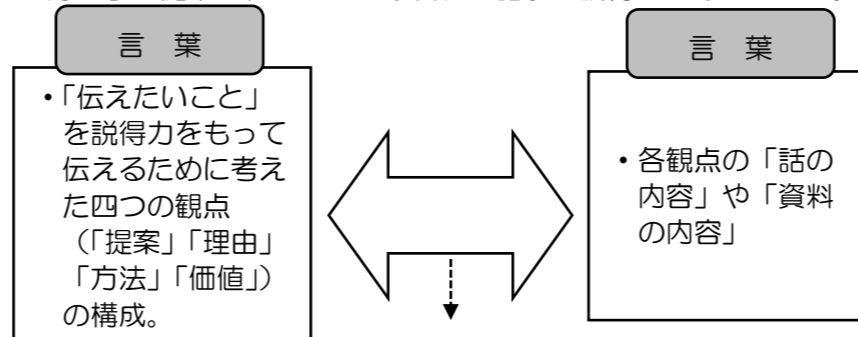
話の構成や資料の示し方のよさを捉える力。

5 学級で発表会を行う。
・評価の観点を基に、互いに発表を評価する。
・発表を振り返り、説得力のある提案の仕方を整理する。

【教科等横断的な単元構想】 総合的な学習の時間 及び 技術・家庭〔技術分野〕

《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》

*自分たちの提案は、どのような流れで話すと説得力があるだろう。



見方・考え方を働かせる子供の姿の例

・説得力のある話の構成について、聞き手を意識して「どのような話の流れにするとどのような効果が狙えるのか」に着目し、グループで吟味・検討している姿。

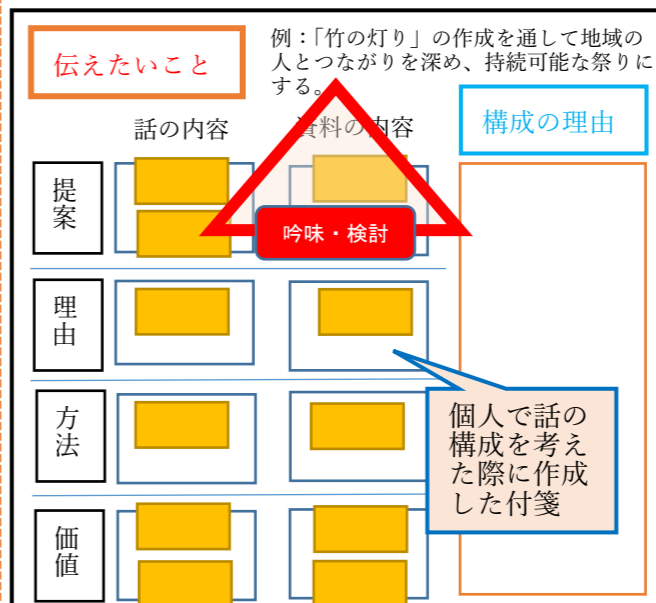
見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

・プレゼンテーションモデルの映像から、構成、資料の使い方、話し方の工夫を捉えさせる。(話題の設定)

・個人で考えたプレゼンテーションの話の構成を比較し、共通点や相違点、構成の理由を基にグループで説得力のある話の構成を考えさせる。

・発表を振り返り、説得力のある提案の仕方を整理させ、整理したことを基に再度プレゼンテーションを行わせる。(共有)

【共有する際に使用する思考を可視化したホワイトボード】



グループで話の構成を吟味・検討する

「提案」と「理由」は、「提案」、「理由」の順で最初に伝えた方が、なぜそう考えたかが分かり相手に伝わりやすいと思う。

私も最初に「提案」を言うことで、私たちの企画のよさが伝わると思う。でも、その後に実現するための「方法」を伝えることで、「提案」が実現可能であることが聞き手に伝わり、説得力を持たせることができると思うよ。

主な資質・能力の系統

小学校第1学年及び第2学年
相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。

小学校第3学年及び第4学年
相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。

小学校第5学年及び第6学年
話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。

中学校第1学年
自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。

中学校第2学年
自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。

本単元

中学校第3学年
自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。



三つの柱の資質・能力

資質・能力を身に付けるための言語活動例

学びに向かう力、人間性等

言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度。

知識及び技能

(2) 情報の扱い方に関する事項
ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

思考力、判断力、表現力等

B 書くこと
ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

本単元では〔思考力、判断力、表現力等〕Bウを指導の重点とする。

《単元末に期待する子供の姿の例》

誰もが考えるような解決策を提示して、それを打ち消しているよ。その後の段落を「だからこそ」で始めることで、有人レジを残す必要があることを、強調しているね。

意見を支える根拠として、調査データを加えたよ。自分の意見が、客観的なデータによって、より分かりやすく伝わるようになったよ。

私は、スーパーマーケットには、一つも有人レジを残しておくべきだと考える。これまでに無人レジを使ったことは何度もあるが、バーコードを機械に読み取らせる……後ろに大勢の人が待っている、とても気まずく……。〇〇マーケティング会社の意識調査によると、十代、二十代の各年代層で二十五％～三十％の人が「自分の次に待っている人が気になる」と回答している。私のように操作が苦手な人にとっては、有人レジの方が、早く済ませなくてという焦りやプレッシャーを感じなくてよいので安心だ。他にも、無人レジで困ることがある。それは、機械が高い位置にあり、子どもや車いすを利用する人などが操作しづらいことだ。機械の高さを自在に変えることができたとしても、そもそも機械の操作が苦手な人は少なくない。だからこそ、係の人を呼び出す方法もあるが、一人で多くの無人レジの様子を見ている人に頼むのは気が引けるものだ。だからこそ、「機械の操作が難しい」と感じる人も気兼ねなく買い物ができるように、有人レジを……。

《主たる教材例》

「根拠を吟味して書こう 『地図』の意見文」(東京書籍2年)
「根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く」(光村図書2年)

《個々の生徒の状況に応じた配慮》

◇生徒が興味をもっていることや体験などを生かせる課題を提示し、選択させることで、主張を明確にもてるようにする。
◇文章の組み立てをつかめるよう、各段落の書き出しの言葉を入れたワークシートを準備する。

《他教科等との関連》

【外国語】・社会的な話題について聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて書く活動
【総合的な学習の時間】・新聞にまとめ、表現する活動

小学校第1学年及び第2学年
語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

小学校第3学年及び第4学年
自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

小学校第5学年及び第6学年
目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

中学校第1学年
根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

中学校第2学年
根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

中学校第3学年
表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。

本単元

言語活動 ●社会生活の中から課題を決め、意見文を書いて投稿しよう ～根拠の適切さを吟味して書く～

本単元では、ニュースで取り上げられていることや他の教科等の学習で話題となったことなどを想起させ、学習や生活の中で疑問に思ったことや新たに知ったことに対して、自分の意見を600字程度にまとめて書く活動を設定している。「AかBか、どちらがよいか」という二者択一の課題に取り組みせることにより、生徒は自分の立場を明確にして、意見を支える適切な根拠を考えることができる。さらに、反論を想定しながら、読み手を納得させる述べ方を工夫することを通して、自分の考えがより伝わるように表現する力を付けることができると考える。

題材の設定、情報の収集、内容の検討

・主張の根拠となる情報を集める力。

1 意見文を読み比べ、根拠を適切に述べるためのポイントを明確にする。

(例文には次のような要素を入れる)

例A 多様な根拠/接続語の工夫

例B 根拠は体験と伝聞のみ

例C 「意見と根拠をつなぐ考え」が不明確

社会生活の中から、意見文に取り上げる課題を決める。

2 意見文の主張を決め、学校図書館等を活用して、根拠となる情報を集める。

(情報収集の視点) 自分の体験/他者から聞いたこと/規則やルールとしての規定/本やメディアで知ったこと

考えの形成、構成の検討、記述

・意見を支える根拠を吟味する力。
・反対意見を想定して、反論する力。

3 根拠を整理し、反対意見への反論を考える。

・2で集めた情報について、意見を支える根拠として適切であるか吟味する。その際、客観性・信頼性の高さや、根拠の明確さ(意見と根拠のつながり)を確認し、意見文に取り上げる根拠を絞る。

・2で集めた情報と「意見と根拠をつなぐ考え」から、反論を想定して、それに対する意見を考える。

4 根拠の適切さや、反論について交流し、根拠を再検討する。

5 構成を考え、意見文を書く。

推敲、共有

・説得力のある文章が書けているか読み直し、効果的な表現にしていく力。

6 書いた文章を読み返し、修正する。

・読み手の立場に立ち、自分の意見と、意見を支える適切な根拠が明確に示されているかや、分かりやすい構成や表現であるかなどについて、推敲する。

7 意見文を読み合い、説得力のある意見文になっているか、よい点と改善点を相互評価する。

根拠となる情報と「意見と根拠をつなぐ考え」について

〈課題〉「スーパーマーケットのレジの完全無人化をしたほうがよいか、しないほうがよいか」
【意見】スーパーマーケットには1つでも有人レジを残しておくべきだ。

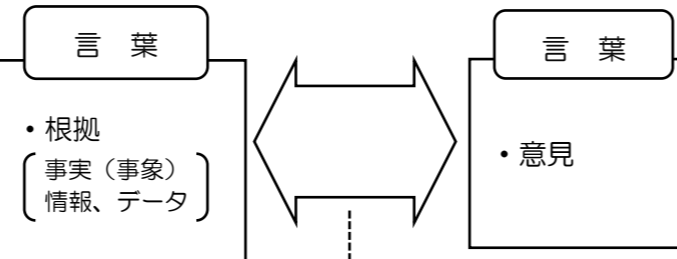
Table with 5 columns: 書く順序, 観点, 根拠となる事実(事象), 評価, 意見と根拠をつなぐ考え, 評価. It contains detailed analysis of arguments for and against cashier-less supermarkets.

「時間がかからないでよい。」という考えだけでは、意見と根拠がつかっていない。

子どもが一人で支払いをするのは、操作が難しいよ。根拠として感欄を加えるといいね。

《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》

*根拠となる事実(事象)や情報、データと自分の意見について、つながりを明確にしよう。



見方・考え方を働かせる子供の姿の例

・根拠(事実、情報、データ)の適当な解釈から、自分の考えが導き出されているかを検討する姿。(根拠と意見のつながりを考える姿。)

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

・例文を比較することにより、根拠の客観性と信頼性、事実(事象)と意見を効果的に結び付けている考えの記述や、接続語などに着目させ、根拠を適切に述べるポイントを明確にしたうえで情報を集めさせる。

・〈根拠と意見をつなぐ考え〉の適切さ、及び、反対意見への反論のための〈根拠〉と、〈根拠と意見をつなぐ考え〉の適切さについて検討して評価し、不十分な点を修正したうえで、取り上げる情報を選択させる。

・既習の説明文の工夫を想起させる。
・自分の立場が明確であるか、根拠は適切であるか、意見と根拠のつながりはよいか、自分の意見が明確に伝わるような構成であるかなど、「説得力」が感じられる表現になっているかを確認させる。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度。

知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項
オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。

思考力、判断力、表現力等

C 読むこと
イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。
エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。

本単元では〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エを指導の重点とする。

《単元末に期待する子供の姿の例》

私にとって忘れられない思い出です。この出来事は私にとつて大切な思い出です。天国のお父さんに心をこめてお祈りいたします。毎日、お父さんのことを思い出して泣いてしまいます。敬具

後半場面では、「私」の心情が直接書かれないことにより、驚きの大きさや「私」の複雑な思いを強く感じた。それらを、手紙の傍線部分に書いた。
※C(1)エにおいてB評価と判断する生徒の説明。(第5時～第6時の評価)

がすがしい秋晴れが続いています。天国の我が母が、いかに秋晴れが好きか、お父さんから聞いたことが、お父さんの手紙の中に、お父さんの愛情を感じていました。お父さん、お母さん、お爺さん、お婆さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんな、天国で幸せに暮らしてください。お父さん、お母さん、お爺さん、お婆さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんな、天国で幸せに暮らしてください。お父さん、お母さん、お爺さん、お婆さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんな、天国で幸せに暮らしてください。

《主たる教材例》 「字のない葉書」(光村図書/東京書籍 2年)

《個々の生徒の状況に応じた配慮》

◇前半のように、後半も登場人物の心情を直接表現するとどうなるかを考えさせ、書かれていない「私」の心情をイメージしやすくする。また、それを第6時の手紙に生かすようにする。

《他教科等との関連》

【外国語】読むこと
・簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動

主な資質・能力の系統

小学校第1学年及び第2学年
場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

小学校第3学年及び第4学年
登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。

小学校第5学年及び第6学年
人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

中学校第1学年
文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

中学校第2学年
観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。

本単元

中学校第3学年
文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。

資質・能力を身に付けるための言語活動例

言語活動 ●亡き父に対する「私」の思いを考え、手紙を書こう ～言葉にならない思いを、表現の効果から考える～

本単元では、登場人物の言動や表現の効果に着目して「私」の心情を考え、それを基に亡き父に対する手紙を書くという言語活動を設定している。まずは父親の言動からその人柄や心情を読み取り、次に2つの思い出を比較して文章の構成や表現の効果に着目させることで「私」の心情について考えさせるという単元構成である。読み取ったことや考えたことを「亡き父への手紙」という形で表現させることで筆者の心情に迫り、文章表現の効果についてより深く考える力を付けることができると考える。

構造と内容の把握

・登場人物の人物像や関係、時間的な設定などを捉えて文章の展開を理解し、内容を把握する力。

- 1 前半・後半の2つの思い出について、それぞれの内容を整理する。
2 随筆を書いている現在の筆者と、2つの思い出について、時間の流れを軸に整理する。

精査・解釈

・登場人物の言動の意味を考え、内容を解釈する力。
・表現に着目して、その効果や「私」の心情を考える力。

- 3 前半・後半における父親の言動を比較して読み、父親の人柄をまとめる。
4 疎開をしている妹に対する家族の心情を、妹の行動や様子の変化に着目して考える。
5 亡くなった父親に対して現在の筆者がどのような思いを抱いているか、表現に即して考える。

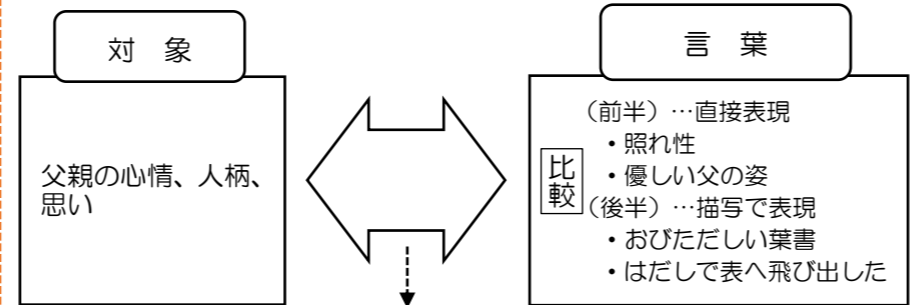
考えの形成、共有

・文章から読み取ったことや考えたことを基に、自分の考えを深める力。

- 6 文章から読み取ったことを基に、現在の筆者から亡くなった父親に宛てた手紙を書き、共有することを通して、自分の考えを広げたり深めたりする。

《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》

*2つの思い出の描き方の違いとは？



見方・考え方を働かせる子供の姿の例

・心情の描き方の違いに着目して、2つの思い出を比較している姿。
・前半は直接的、後半は描写による表現が多いのはなぜか、表現の効果について追究する姿。

5において、2つの思い出の描き方の違いから、筆者の心情を考える場面。

Diagram showing contrasting descriptions of the father's mood.
- 前半 (Front half): 'こそばゆいような晴れがましいような気分' (A mood of being a bit awkward and sunny), '照れ性でもあった父' (A father who was also shy), '優しい父の姿' (A kind father's appearance).
- 後半 (Back half): 'おびたしい葉書' (Anxious letter), 'はだして表へ飛び出した' (Took out and flew out), '父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た' (I saw my father, an adult man, raise his voice and cry for the first time).
- 共通 (Common): '人柄や心情を直接書かず、行動や様子の描写で表現' (Without writing personality or mood directly, but expressing it through actions and descriptions).
- 解説 (Explanation): '父の心情を直接描かないことで、「私」の目線で深く考えることができる。驚きと、複雑な思い(羨ましい・嫉妬)当時の「私」の心情と、現在の「私」の心情の両方について考えることができる。' (By not describing the father's mood directly, it is possible to think deeply from the perspective of 'I'. It is possible to think about both the mood of 'I' at that time and the mood of 'I' now. Surprise and complex thoughts (envious/jealous).)

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- ・大人になった「私」が当時を思い出して書いているという点に留意させ、時間の流れを整理する。
・2人の娘に対する父親の愛情の示し方について、前半・後半の描写を対比的に板書することで、その違いや表現の効果を考えやすいようにする。
・手紙を共有する際には、作品中の文章表現や描かれ方の違いに即して考えたことと、手紙の内容を関連させて説明させる。

三つの柱の資質・能力

資質・能力を身に付けるための言語活動例

学びに向かう力、人間性等

言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度。

知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。

思考力、判断力、表現力等

B 書くこと
イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。

本単元では〔思考力、判断力、表現力等〕Bイを指導の重点とする。

《単元末に期待する子供の姿の例》

文中の番号は、右図「構成メモ例」内の番号を示す。

⑧ 二〇一五年九月、国連サミットにおいて十七の「持続可能な開発目標」が採択された。その中の一つに「海の豊かさを守ろう」という項目が掲げられている。② ① 人間が出すごみが海洋ごみとなり海洋環境を汚染しているということ。③ 周知の事実だが、このままの状況が続くと、二〇五〇年には、海洋中のプラスチックごみの重さが、魚の重さを上回ってしまうという試算も出されており、海洋環境は、危機的な状況に立たされている。

④ プラスチックごみは、分解されないため、海洋生物や海鳥が誤食したり、ごみの原因で負傷したりというニュースは世界で後を絶たず、人間本位の行動が地球環境を破壊しているという現状がある。

⑤ 日本の現状をみると、プラスチックの廃棄量は主要な地域十キログラムを越えている。その数値となるわけではないが、プラスチックの割合は、一九二の海に流出する割合は、一九二の海に

⑥ ⑦ ⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

言語活動 ●「持続可能な社会」の実現について、伝えたいことを新聞に書こう ～目的や意図に応じて文章の種類を選択し、構成を工夫する～
本単元では、「持続可能な社会」の実現について、伝えたいことを新聞にまとめる活動を設定している。「持続可能な社会」の実現について、多様な読者に関心を持ってもらえる新聞にするには、文章の種類や構成をどのようにすればよいかなどについて、既習の知識を活用しながら考えさせる活動を通して、目的や意図に応じて文章の種類を選択し、構成を工夫しながら読み手の関心や理解を得られる文章を書く力を養うことができると考える。

題材の設定、情報の収集、内容の検討

- 目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にする力。

構成の検討

- 目的や意図に応じて、伝えたいことを表現するのに適した文章の種類を選択し、構成を工夫する力。

考えの形成、記述

- 目的や意図に応じて、伝えたいことが伝わる文章になるように工夫する力。

推敲

- 目的や意図に応じた表現に整える力。

共有

- 自分の文章のよい点や改善点を見いだす力。

- 学習の見通しをもつ。題材を決め、題材に関する情報を収集し、情報カードにまとめる。(情報収集の期間をとる。)
- 題材や伝えたいことなどでグループを編制する。収集した情報を整理し、紙面の割付けや字数を決める。
- 新聞に適した文章の種類について確認し、自分たちが伝えたい内容に適した文章の種類を考え、構成メモを作成する。
- 読みやすい構成や内容となっているかについて構成メモを基にグループで検討し合う。
- 目的や意図、文章の種類に合った構成や表現、引用した資料の客観性や信頼性、自分の考えと引用した資料の関係などについて留意しながら下書きをする。(手書き以外にもパソコンのワープロソフトで文章を入力することも考えられる。)
- 読み手の立場に立ち、目的や意図に応じた構成や表現になっているかなどをグループで確かめ合い、文章を整える。
- 各グループの新聞を読み合い、構成や内容などについて、コメントし合うことを通して単元の学習を振り返る。

《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》
*伝えたい内容に適した文章の種類や構成になっているか？

対象

- 伝える目的や意図
- 多様な読み手(他学年の生徒、保護者や地域の人)

「持続可能な社会」について地域の皆にも関心をもってもらいたいな。

言葉

- 文章の種類(報道文、随筆、意見文など)
- 各文章の構成

読み手に関心をもってもらうために⑧と②をリード文に入れては？
具体的な事実を追加すると、考え(結論)がより確かなものになるよ。

③	②			①
結論	一般化	具体的事実		伝えたいこと
まとめ(考え)	現状から言えること	地域の現状	日本の現状	世界の現状
⑨ 私たちが何を考え、行動しよう	⑦ 人間の行動(プラスチックの消費や廃棄)が海洋に汚染を及ぼしている	⑥ 青い海のプラスチックごみが増えている	⑤ 海洋ごみは地球の海を汚染している	④ 年間約100万トン以上のプラスチックごみが海洋に流出している
⑧ 「海の豊かさを守ろう」	② 二〇一五年九月採択「持続可能な開発目標」	① 持続可能な開発目標	③ 海洋ごみは地球の海を汚染している	④ 年間約100万トン以上のプラスチックごみが海洋に流出している
⑦	⑥	⑤	④	③
⑥	⑤	④	③	②
⑤	④	③	②	①
④	③	②	①	
③	②	①		
②	①			
①				

報道文の構成メモ例

見方・考え方を働かせる子供の姿の例

- 目的や意図に応じ、伝えたいことを効果的に伝えられる文章の種類を考えて選択したり、読み手の関心や理解を得られるように文章や紙面の構成を工夫したりしている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- 文章を書く目的や意図を明確にさせる。
- 文章の種類の特徴について確認させる。
- 論の進め方や説明の仕方などについて、別単元等での既習を想起させ、何をどの順番で書くと説得力を高めることができるかを考えさせる。
- 構成メモをもとに、説得力のある文章の構成や論理の展開についてグループで検討させる。必要に応じて事例等を削除・追加させる。

- 《主たる教材例》「編集して伝えよう『環境』の新聞」(東京書籍3年)
- 《個々の生徒の状況に応じた配慮》
◇教科書教材での学習や社会科で学習したSDGsなどについて想起させながら学習の見通しをもたせる。
- 《他教科等との関連》
【社会】第2・3学年 【理科】第2・3学年
・自然や社会と人間の関わり方について考える活動

小学校第1学年及び第2学年 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	小学校第3学年及び第4学年 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	小学校第5学年及び第6学年 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。	中学校第1学年 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。	中学校第2学年 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。	中学校第3学年 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。
--	---	---	---	--	---

主な資質・能力の系統

本単元